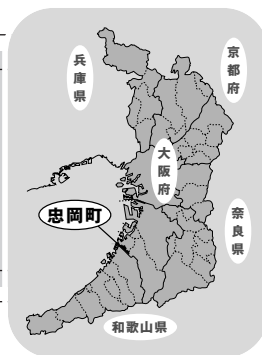


# わたしのまちのPR

ピーアール

## 忠岡町編



忠岡町は、大阪府の西南部、大阪湾に面する臨海部に位置しており、牛滝川・大津川をはさんで、北は泉大津市、東は和泉市に、南は岸和田市と接しています。

大阪の中心部から電車で30分ほどに位置しており、町全域が市街化されています。国道26号（第二阪和国道）と府道大阪臨海線が南北に走り、また、南海電鉄南海線とJR阪和線が走るなど、交通の便に恵まれています。こうした交通事情を背景に開発が進み、臨海部と大津川左岸は工業地として発展し、中央線以南は南海線忠岡駅周辺とシビックセンター周辺部の商業地を中心に住宅が広がるなど、今後更なる発展が期待されています。

この忠岡町の魅力や特色について、企画財政課長の原田さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、忠岡町の歴史を教えてください。

よろしくお願ひします。

町内からは、縄文式、弥生式時代の遺跡は確認されていませんが、周辺の状況からみて、早くから人が住み、農漁の生活を続けていたと考えられています。戦国期には、忠岡の村々は豊臣秀吉の勢力下であり、文禄3年（1594年）の検地以降は、文献に、忠岡村など現在の忠岡の基礎をなす地名が現れるようになります。

その後、江戸時代、明治初期の変遷を経て、明治22年4月に忠岡村、馬瀬村、北出村、高月村の4村が合併して忠岡村が誕生しました。そして、昭和14

年10月には町制を施行し忠岡町となり、現在に至っています。

本町の町章は、昭和48年に制定されました。

「忠」の「中」と「心」を組み合わせて、海辺での鳥のはばたきを図案化しており、円形は円満な雄飛発展を表し、チヌの海の波頭に踊る忠岡町を象徴したものになっています。

町章



忠岡町のおすすめのスポットを教えてください。

おすすめのスポットといえば、まずは、永福寺のビャクシンです。樹齢800～900年と言われるイブキの巨木5株がそびえ立つその姿は、圧巻の一言です。かつて木曾義仲の家臣が伊吹山から持ち帰り移植したと伝えられているこのビャクシンは、大阪府の天然記念物に指定されるとともに、大阪みどりの百選にも選定されています。

永福寺のビャクシン



また、忠岡神社の境内には、俳句ファンの隠れたスポットである、高浜虚子・高浜年尾・稲畑汀子氏の三代句碑があります。俳誌『ホトトギス』を主宰

忠岡神社



三代句碑



した高浜虚子・年尾親子の句碑が昭和46年に町内のホトトギス同人によって建立され、平成元年には、稲畑汀子氏の句碑が建立されました。

忠岡神社といえば、だんじり祭りが有名ですね。

だんじり



「墓店」



盆踊り大会

そうですね。忠岡のだんじり祭りは江戸時代から続いており、毎年10月は町がだんじり祭り一色に染まります。忠岡神社で行われる曳行安全祈願から始まり、忠岡神社への宮入りで最高の盛り上がりを迎えます。町内には4台のだんじりがあり、曳行コース中にある9箇所のやりまわしポイントでは、勇壮なやりまわしをご覧ください。是非、一度お越しください。

また、祭りと言えば、毎年お盆の13日に行われる町内で最も規模の大きな夜店である「墓店<sup>ほかみせ</sup>」もおすすめです。

本町の中心部を貫く忠岡本通り線の府道堺阪南線交差点から忠岡墓地までの約500メートルの沿道に夜店が数多く出店します。そのはじまりは昭和初期といわれています。お盆のお墓参りを、昼の厳しい日差しを避けて夕刻から夜間にかけて行う習慣があり、墓地までの沿道に夜店が出てきたのがはじまりとされています。遠くの地に転勤や嫁いだ人々にとっては、懐かしい故郷の香りを感じることができる帰省の大きな楽しみにもなっています。

盆踊り大会が同じ13日に開催されるようになり、今まで以上に「墓店」も賑わっており、最近では、外国からの見物客の姿も見られるようになっています。

多くの見物客で賑わっていますね。その他のおすすめのスポットを教えてください。

正木美術館もおすすめです。本町の名誉町民でもある故正木孝之氏が、昭和43年11月に開館したもの

で、収蔵品の分野は多岐にわたり、国宝3点、重要文化財12点を含む約1,200点を収蔵しています。中世の禅宗文化の遺産を多く収蔵し、多くの来館者が訪れています。

#### 正木美術館



歴史・文化を大切に受け継いでいるのですね。  
忠岡町では、国際交流にも積極的に取り組んでおられると聞きましたが、これについて教えてくださいいただけますか。

平成7年にオーストラリアとのピットウォーター市と友好都市提携を結び、様々な形で交流を行っています。その一つに、泉州国際市民マラソンがあります。本町を縦断する形で行われるこの大会には、毎年、ピットウォーター市から市民ランナーに参加していただいています。ただ参加してもらっただけでなく、幼稚園での交流会やウェルカムパーティーを通じて、相互理解に努めています。

また、青少年交流事業として、中学生の交流を行

っています。昨年は、ピットウォーター市から15人の中学生を受け入れ、7組のホストファミリーボランティアに協力してもらい、ホームステイを行いました。今年は、本町から8名の中学生がピットウォーター市を訪れ、ホームステイを行います。短期間ではありますが、親元を離れ異国の地で生活するという経験は、何事にも代え難い財産です。この経験を糧に、子どもたちが世界に羽ばたいていくことを期待しています。

子どもたちにとって一生の宝物になりますね。  
次に、忠岡町のまちづくりについて教えてくださいいただけますか。

本町では、住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを、施策の中心にすえてまちづくりに取り組んでいます。

近い将来、高い確率で発生するとされている南海地震、東南海地震をはじめ様々な災害に対して、周到な対策が求められており、官民が連携し「住民力」を生かして、防災対策を講じていく必要があります。

その一つとして、住宅の耐震化に力を入れています。昭和56年5月以前に建設された木造住宅の耐震化を積極的に推進するため、耐震診断費用の負担軽減を図るなど、耐震に対する意識の高揚を図るとともに、住宅の耐震化を進めています。

また、「忠岡町ハザードマップ」を作成しました。

#### 防災訓練



国際交流



これは、町内やその周辺を流れる大津川水系大津川・榎尾川・牛滝川流域において、100年に一度といわれる大雨によって氾濫した場合の浸水予測に基づいて、浸水する範囲や深さと各地区の避難場所を示しています。こうした啓発等を通じて、日ごろから、住民の防災意識のより一層の向上に取り組んでいます。

さらに、災害時における初動期の対応については、行政だけで全て対応することは困難です。そこで、自主防災組織等が有効に活動できるように、今年度も、住民体験型の防災訓練を予定しており、引き続き、官民連携の強化と住民の意識高揚に努めていきます。

官民連携にあたっては、「住民力」という言葉が使われていますが、これについて教えてくださいませんか。

はい。「住民力」とは、「助け合い支えあうまち」を目指して、行政だけではなく、住民の協力を得ながら住みよいまちづくりを進めていくという意味で使用しています。

「住民力」を生かした取組として、安全・安心の確保に向けて、泉大津警察署や防犯委員会などの関係機関の連携を一層緊密にし、防犯体制の強化を図っています。また、住民の生命や財産を守るため、火災予防にも努めており、自主防災組織の指導・支援や、消防団と連携した消防体制の確立・強化にも力を入れています。

その他の「住民力」を生かした取組を教えてくださいませんか。

近年は、全国的に子どもを狙った凶悪犯罪が頻発しています。本町では、幼い命を守るために地域ぐるみで取り組んでおり、「こども110番」や「子どもの安全見守り隊」活動との連携を進めています。青色回転灯を装備したパトロール車を活用して、子どもの下校時間に合わせて巡回警備を強化するなど、児童・生徒の安全確保についても、官民一丸となって取り組んでいます。

こうした「住民力」を生かした取組を、「頑張る地方応援プログラム」として位置付け、安全・安心な

まちづくりを進めています。



防犯パトロール（青パト）



住民との協働を生かしたまちづくりに努めているのですね。

最後になりますが、今後のまちづくりについて教えていただけますか。

本町では、町立病院やゴミ・し尿処理、消防本部など、住民の生活に密接に関連している事業を全て町で執行してきました。面積約4.03km<sup>2</sup>、人口約18,000人の本町にとっては、この負担は決して軽いものではありませんでしたが、住民に密接に関連するものだからこそ、より住民に身近な町で執行することが大切だとの判断から行ってきたものです。しかし、その病院も全国的な医師不足の煽りを受けて、閉院せざるを得なくなりました。また、少子高齢化の進展や人口減少など、町政を取巻く環境はますます厳しくなっていますが、持続可能な行財政運営を確立し、住民が真に必要とするサービスを提供していく必要があります。

本町では、今年度を町政の原点に遡って大胆に見直しを行い、新たな自立再生の船出をすべき再出発の年であると考えています。忠岡町の現状をきちんと見据えて、何が本当に住民のためになるのか、住民と一緒に考えて、今後も「住民力」を生かした官民連携を進め、「小さくても笑顔のあるまちづくり」、「支えあうぬくもりのあるまちづくり」に取り組んでいきます。

「住民力」を生かしたまちづくりに、一層躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。